

都心臨海部・インナーハーバー整備構想の検討状況について

経済観光・港湾委員会資料
平成21年9月18日
港 湾 局

1 構想の概要

(1) 目的

- 開港150周年を契機に、次の50年を見据えた都心臨海部・インナーハーバーの理想の姿を描く。

(2) 対象地域

- 概ね横浜ベイブリッジより内側でJR京浜東北線・根岸線の海側の地域が対象。



対象エリア図

◆ 対象エリア（現況）

面積：全体 約3,200ha
(陸域 約2,000ha、水域 約1,200ha)

人口：約11万人(平成17年国勢調査)

従業者数：約36万人(平成18年事業所・企業統計)

2 構想の検討経緯

(1) 検討開始時期

- 平成20年度

(2) 検討体制

- 有識者による懇談会を設置し、3回に渡って開催。
- 過去のまちづくりの振り返りや、検討にあたっての着眼点、留意点などについて意見交換をいただく。

(3) 骨子案の作成

- 懇談会での意見を踏まえ、構想の基本的な考え方をまとめた骨子案を作成し、平成21年6月3日に公表。

(4) 懇談会委員

梅川 智也	(財)日本交通公社 研究調査部長
大矢 和子	(株)資生堂 常勤監査役
北沢 猛	東京大学大学院 教授
北山 恒	横浜国立大学大学院 教授
藤木 幸太	横浜港運協会 副会長
中田市長	—
金田副市長	—

(敬称略)

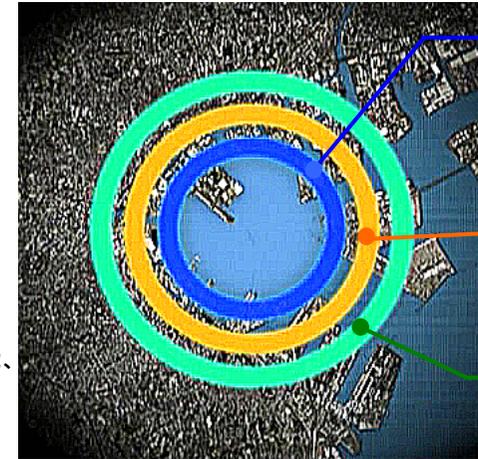
3 構想の骨子案(抜粋)

(1) 基本理念

- 人材と文化が活躍する海の都
- 東アジア圏の人文首都へ

(2) 新しい都市構造

(マルチリング・シティ横浜)
水面を囲む地域は、それぞれの地区で核となる活動や機能、施設を有しながら、全体に緩やかに広がり、それぞれをリング状に結んでいきます。



インナーリング

(水際の生活を支える新たな交通手段)

水面を活かした、水上交通の整備、沿岸部を手軽に移動するための新たな交通手段の導入など。

アウトerring

(地域間の公共交通を再編)

リング構造を活かした、既存交通の再編、循環型のエネルギーシステムなど。

グリーンリング

(環境を保全する水と緑の連携)

豊かな緑地の整備と囲い込む水面を活かした環境共生モデル。

4 検討の進め方

